

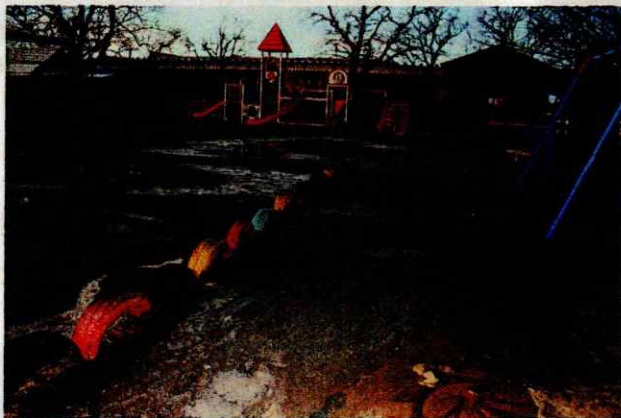
茨城県被災地取材

青年部広報委員会は、去る3月11日の東日本大震災で被災した県内保育園の状況取材しました。

まず、液状化現象による甚大な被害を受けた「潮来市日の出地区」にある日の出保育園取材した（平成23年6月9日取材）。車で潮来市に入った時点では被災状況について県内の他の地域と大きな差は感じられなかったが、日の出地区に入ったところから周囲の状況が一変した。電柱は大きく傾き、道路は波打ち、傾いた状態の住宅がいたるところにみられ被害の大きさを物語っていた。

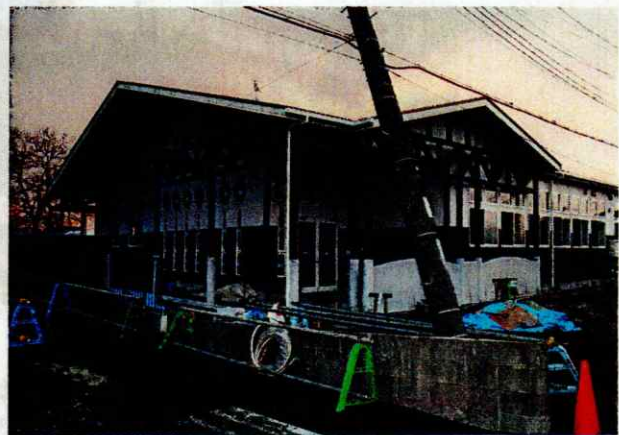
日の出保育園に到着し、塙信一園長先生と塙信晋事務長が、地震当日の話、園舎の状況について、これからの問題点について話をしていただいた。

液状化により園庭が泥水の海と化した



園長先生から話を聞く様子

震災当日は、園児たちを園庭に避難させたが、液状化で園庭のいたるところから水が噴出したため、大きな木の根元に園児たちを集めて保護者の迎えを待った。大きな余震が来るたびに建物は揺れ、電柱が傾き、水が噴出した。その様な中、保育士たちは子どもを不安にはいけないと、声かけをしたり、歌をうたったり、話をしたりして保護者の迎えを待ち、全園児を保護者に無事引き渡すことができたのは夜9時半を過ぎたころだそうである。また、自宅が離れている一部の職員はそのまま保育園で一夜を明かすこととなった。



電信柱が傾き園舎にもたれそうな状態に

また、この時（平成22年度）に、日の出保育園は改築事業をすすめているところであったが、建物が完成し引渡しを目前に控えたところで大震災が起きた。地震により園舎は不同沈下を起こし、園舎が傾き、道路側に数センチずれてしまったそうである。

このため、引渡しを延期し仮使用することとした上で、業者さんとも話し合いを重ねてきた。契約上は天災による修繕は施工業者に一定額負担してもらうこととなるが、不同沈下工事に係る修繕費は大きなものとなり、園のさらなる修繕のためには大きな資金が必要となるため、国や県、市の動向を見据えながら復旧事業を進めていく考えである。

現在は応急処置により子どもたちを保育しているが、液状化による園舎の大きな傾きは建物の構造に多大な負担をかけることとなり、ひいては躯体の歪みを引き起こすことも考えられる。また、未知数ではあるが園児への影響も考えられ、短期的並びに中長期的な被害は計り知れず、早い時期での修繕が望まれる。



震災当時の園周辺の道路の様子



震災から3ヶ月経過しても水がなくなっただけで手付かずのままだった

園長先生のお話をお聞きした後は、事務長先生が運転する園バスに乗せていただき、日の出地区全体を案内していただいた。いたるところで道路が破壊され、塀が地面に沈み、家が傾いている。上下水道は完全復旧には程遠く、仮設の水道管が道路の至る所に設置されそれぞれが長く伸びている。被害を免れた家はほとんどないのではないかとされる状況であった。



道路は波打ち走っている間きちゃんと座ってられない状態だった



仮設の水道管が町中に見られた

帰路について取材陣は口数が少なかった。しかしながら日の出地区の復旧が茨城県の復旧のメルクマール（指標）となるであろうことは間違いの無いことのように思われた。

※この文章は平成23年6月9日に取材した時の文章です